

項目	7 水害への対策について (1) 大規模豪雨による水害への取組
答弁者	交通基盤部長
質問要旨	<p>近年、「これまでに経験したことのないような豪雨」が全国各地で発生している。</p> <p>私の住む浜松市でも、今年9月2日の猛烈な雨、9月23日から24日にかけて県内に大きな影響を及ぼした台風15号において、河川からの氾濫や排水不良、いわゆる内水に起因する浸水被害が多く地域で発生した。</p> <p>今後も同じような被害に見舞われるのではないかと大変心配している。</p> <p>地球温暖化に伴う気候変動により水災害が頻発化、激甚化している。このような状況に対して、国は「流域治水」の考え方を打ち出し、その考え方に基づき取り組みを進めていると認識している。</p> <p>県でも特に浸水被害が頻発する地区において「水災害対策プラン」の策定が進められており、馬込川、安間川では地域の関係者が流域一体となった浸水被害軽減対策に期待している。一方で、市街化の進む地域では河川改修に時間がかかることも事実であり、台風15号のように短時間の豪雨による浸水被害の発生を目の当たりにすると、河川改修など治水安全度を向上させる取組の重要性を改めて実感するとともに一刻も早くさらなる浸水被害軽減の取組を進める必要があると考えている。</p> <p>そこで、今回のような大規模豪雨による水害から県民の生命や財産を守るためにどのように取り組んでいくのか伺う。</p>

<答弁内容>

水害への対策についてのうち、大規模豪雨による水害への取組についてお答えいたします。

本県では、これまで県内各地で河川改修や河道掘削、堤防の天端舗装などの事前防災を進めてまいりました。その結果、今回の台風15号では記録的な豪雨でありましたが、多くの河川では堤防の決壊には至らず、これまでの治水対策の効果が一定程度発揮されたものと考えております。

一方、今般の豪雨では、河川整備の水準をはるかに上回る洪水が堤防から溢れ氾濫したことに加え、支川や水路の排水不良による内水氾濫も多く発生いたしました。このため、河川整備にとどまらず流域全体でハード・ソフト一体的に浸水被害の軽減を図る「流域治水」の取組を進めることが重要であります。

また、今回の豪雨を経験した多くの方々からは水災害への不安の声が寄せられており、激甚化する水害に備えるためには、流域のあらゆる関係者が地域の水害特性や治水対策の現状などを正しく理解することが極めて大切であります。このため、浜松市内の安間川などの浸水が発生した流域におきましては、関係市町や地域防災の主役となる住民の皆様と定期的に意見交換を行い、地域の実情に応じた有効な対策をまとめ、

協働により「流域治水」に取り組んでまいります。